

エルヴェ・スタデルマン製作のロボット彫像 MB&F M.A.D. ギャラリーにて発表

MB&F M.A.D. ギャラリーは、+Brauer 製作の「Viva la Robolución (ビバ・ラ・ロボリューション)」に続き、「クールさ」を凝縮したもう 1 つの見事なロボット彫像展を行います。類まれなる作家エルヴェ・スタデルマンが、グラフィックデザインへの慧眼を持ったブリキアーティストとして天賦の才を発揮しています。

彫像

ロボット・フィギュアという発想はどのように誕生したのでしょうか。「2014年11月のある夜、最小限のパーツを用いて小さな金属スカルを作っていたのですが、途中で飽きてしまいました。」「そこで、結果は考えずに何となく抽象的な彫像を作り始めたのですが、すぐにその抽象的な彫像がロボットのように見え始めたので、よし、良いアイデアだと思ったのです。」とスタデルマンは説明します。

その人気は地元で瞬く間に高まり、このアイデアを発展させることができるのではないかとスタデルマンは実感しました。

彼のロボットに、一体として同じものはありません。図案化され色彩に富み、モノクロームの素材を芸術的手法で際立たせるために、一つずつ丁寧に作り込んだ金属の折り目を周到に配置していきます。

同時にこれは、それぞれのロボットが持つ独特な性質を生み出します。例えば、一体にはアンテナあるいは古典的なエジプト様式の頭飾りに見えるようなものが付けられる一方、他のロボットは胸回りに映える鮮やかな着彩図案あるいはモノクロームの銅の色調などで区別されます。スタデルマンの構成はまた、ペプシやハイネケンのサービストレーといった身近な素材に新しい生命を吹き込みます。彼は金属を巧みに織り込み、それらを組み合わせながら、独創的なロボット彫像を作り上げるのです。

ロボット彫像は動かない像であるにもかかわらず、それぞれが個性を帯び、サイズも大型であることから力強い視覚的印象を与えます。平均身長 70 センチ、つまり 2 フィートをわずかに超えるロボットは、どのような空間にあってもすぐさま視界に飛び込んで来て、面白い会話の端緒となるに違いありません。スタデルマンの彫像は玩具ではありませんが、私たち皆が内に秘める子供心に訴えかけます。こうした点で MB&F M.A.D. ギャラリーに相応しい作品です。

スタデルマンは、M.A.D. ギャラリーのために、16 体から成る個別ナンバー入りロボット彫像群を製作しました。それぞれの外観は 1 体ずつ大きく異なり、見まがうことのないパーソナリティを宿しているのがはっきりと分かります。彼の冶金学的な専門知識やデザインの才

詳細は下記までお問い合わせください:

ジュリエット・デュリュ (Juliette Duru) MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

能と、それに注ぐ情熱を証明する多くの曲げや折り。折り紙のような特徴的な雰囲気を漂わせるロボタイプの入り組んだ構成は、懐かしい趣のペプシコーラ缶やエキゾチックなアジア産茶葉容器など、再利用した素材であることを堂々と表現しています。

じっくりと目を凝らして見れば、スーパーヒーローの偉大さがわずかでも認識できるかもしれません！

制作工程

スタデルマンは、スイスの時計製造の中心地ラ・ショー・ド・フォンにある自分のスタジオで、ロボット彫像を全て手作業で制作しています。平均身長 **70cm**、幅 **40cm** のロボットになる彫像 1 体分を組み立てるのに、金属板 **2 平方メートル**を要し、その作業時間は約 **80 時間**にも及びます。

勢いある **1970 年代**に生まれたスイス人クリエイターであるスタデルマンは、「私のインスピレーションは、金属板のグラフィック、タイポグラフィ、テクスチャーに導かれます。重要な点は、創意を刺激してくれる金属板を見つけることです。それらが手に入るとすぐに、仕事に取り掛かります」と語ります。

ロボット彫像製作に使う金属の薄板は、スタデルマンが蚤の市に足しげく通って見つけてくるものもあれば、捨てられていたり、街角にあったものであるときもあります。時にはお茶の箱、クッキーのブリキ缶、ブランド名の入ったサービストレーや金属製の標識など、銅やステンレスからブリキ、アルミニウム、亜鉛といった素材を再利用することもあります。考え抜かれたデザインを披露するアーティストは「様々な厚みの素材を再利用することがほとんどです。」と説明します。

選んだ素材を土台に、彫像のデザインを構想します。金属のカットや折りは、大胆な柄でロボットのパーソナリティーを表現するために入念に配置され、頑健な構造は、力強いデザインにマッチしています。こうして作品を観る人には、あたかもそれぞれのロボットが秘めたパワーを持っているかのように見えるのです。

「手を使っての作業は、私にとって極めて重要なことなのです。」熟練したブリキ職人スタデルマンは、プライヤ、大型ハサミ、ハンマーといった基本的なツールを用いて、複雑な曲げや継手を手作業で創り出します。彼の彫像は全て手づくりで、電気工具や機械は一切使用されていません。

ロボット彫像を完成させるに最も難しい段階は内部の組み立てで、ピースが精密でなければうまく作用しません。この難題に加え、全ての素材は厚みと長さが異なるため、それぞれのロボット彫像には独自の青図が必要となります。

詳細は下記までお問い合わせください:

ジュリエット・デュリュ (Juliette Duru) MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

略歴

エルヴェ・スタデルマンは 1978 年にスイスで生まれ、子供の頃からグラフィックデザインとスケートボードを愛好しつつ、また手を使ってのモノづくりに喜びを見出しました。1997 年、これらの得意技能を正式な形で展開するために、ムーティエの工芸学校で板金工のスイス連邦職業技能資格（CFC）を取得します。この資格は、最終試験あるいはそれと同レベルの資格に合格した後に行われる 3 年から 4 年の見習い研修の後に授与される資格です。2005 年には、ラ・ショー・ド・フォンの芸術学校からグラフィックデザインの連邦職業技能資格を授与されると同時に、モスクワでのインターンシップという素晴らしい機会も与えられました。

スタデルマンのタイポグラフィと製図は、スイスとロシアで発表され、彼の作品はヨーロッパやスイスで数々の賞を獲得しています。

多くの芸術的才能を併せ持つスタデルマンは 2005 年に独立、様々な顧客のために、グラフィックデザイナー、広報マネージャー、芸術監督として手腕を振るうようになりました。デザインと彫像に焦点を当てた個人的な活動は、今日もなお継続して行っています。

スタデルマンは「2015 年、多くのロボット彫像を製作しました。私の身近な人々が、家にロボットを欲しがったからです。これらの形成ロボットは、私の二つの仕事を結びつけて一つにしてくれました」と言います。

ジュネーブの MB&F M.A.D. ギャラリーには現在、16 体のロボットが展示されています。各 2,450 スイスフラン（スイス付加価値税込み）。

M.A.D. ギャラリー ジュネーブ

所在地: Rue Verdaine 11, 1204 Geneva, Switzerland
連絡先: info@madgallery.ch
電話: +41 22 508 10 38
ウェブサイト: www.madgallery.net
ネットショップ: <http://shop.madgallery.ch>

@MBFMADGALLERY で、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックをフォローしてください。

詳細は下記までお問い合わせください:

ジュリエット・デュリュ (Juliette Duru) MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland
メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36